

平成20年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2008年5月～6月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは平年を下回る。

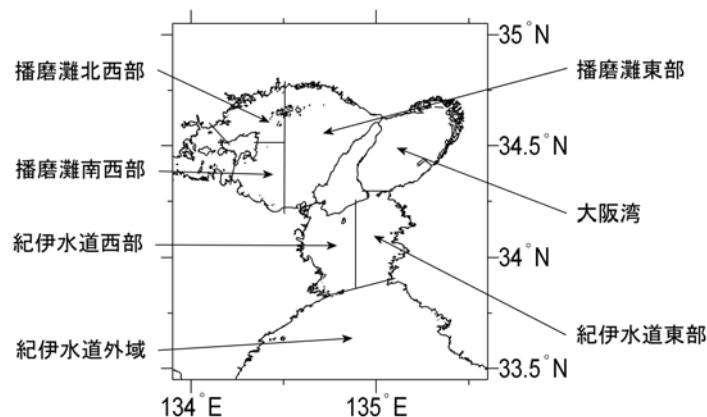
(2) 漁場：

紀伊水道では不漁であった2007年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では平年並みであった2007年、平年を下回る。

播磨灘東部では不漁であった2007年、平年を下回る。

播磨灘南西部・北西部では好漁であった2007年、平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成20年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2008年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道では不漁であった2007年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では平年並みであった2007年、平年を下回る。

播磨灘東部では不漁であった2007年、平年を下回る。

播磨灘南西部・北西部では好漁であった2007年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2006年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2007年4月～2008年4月）および今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2007年の漁獲量は前年の110%、平年の79%であった。2008年の漁は4月21日現在、低調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では2007年の漁獲量は前年の119%、平年の45%であった。2008年の漁は4月22日現在、低調である。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2007年の漁獲量は前年の108%、平年の65%であった。

大阪湾（大阪府）では2007年の漁獲量は前年の233%、平年の115%であった。2008年の漁は例年より早い4月14日から始まったが、魚影は薄いため、多くの船は出漁していない。

大阪湾（兵庫県）では2007年の漁獲量は前年の206%、平年の106%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2007年の漁獲量は前年の155%、平年の48%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2007年の漁獲量は前年の417%、平年の131%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2007年の漁獲量は前年の342%、平年（2000～2006年の平均値を平年値とした）の166%であった。2000年以降で最も好漁であった2002年に次ぐ漁獲量であった。

(2) 日向灘～紀伊水道外域での産卵量等

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況では、日向灘～紀伊水道外域における2008年1～3月の合計産卵量は15兆粒であり、前年の68%、平年の13%であった。2月には日向灘、土佐湾沿岸～室戸岬沿岸、3月には土佐湾沿岸～紀伊水道外域で産卵が認められた。3月の土佐湾沿岸～紀伊水道外域における産卵は前年より高水準であった。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場が行った2008年2～4月の紀伊水道外域東部における定線調査では、2月にカタクチイワシ卵は採集されなかった（LNPネットによる前年の平均採集数は0.1粒／網、1998～2007年の平均値は11.7粒／網）。3月は1.9粒／網であり、前年の355%、平年の3%であった。4月は3.8粒／網であり、前年の2,212%、平年の8%であった。4月の紀伊水道東部における定線調査では0.1粒／網であり、前年の100%、平年の8%であった。

徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った2008年2～3月の紀伊水道外域西部における定線調査では、2月のカタクチイワシ卵密度は1.6粒／ m^2 であり、前年の216%、平年の5%であった。3月は47.1粒／ m^2 であり、低水準であった前年の1,519%、平年の47%であった。稚仔は採集されなかった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年春季発生群）

4月23日現在、黒潮は都井岬沖でやや離岸し、足摺岬～室戸岬沖で接岸、潮岬沖でやや離岸している。土佐湾お

よび紀伊水道外域には黒潮系暖水の波及が見られる。水産総合研究センターの海況予報モデル(FRA-JCOPE)の予報結果を併せて考慮すると、5月前半までは潮岬沖で黒潮はやや離岸する傾向を示し、その後に接岸していくと予想される。

紀伊水道の春季シラス漁は紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。紀伊水道外域でのカタクチイワシの産卵は前年より多いが、平年と比較して低水準である。紀伊水道外域では黒潮系暖水の波及が見られるが、潮岬沖で黒潮がやや離岸しており、来遊環境は良好でない。紀伊水道では4月23日現在、カタクチシラスのまとまった漁獲は見られていないが、5月後半以降、黒潮は潮岬に接岸傾向で推移すると予測されており、現在より来遊環境は好転すると考えられる。これらのことから、前年を上回り、平年を下回ると予測された。

大阪湾および播磨灘の春季シラス漁は紀伊水道および外域でのシラス現存量と来遊環境に主に依存する。今後來遊環境は好転すると考えられるが、紀伊水道および外域でのカタクチシラスの漁況は低調であり、仔魚もみられないので、大阪湾および播磨灘では前年、平年を下回ると予測された。

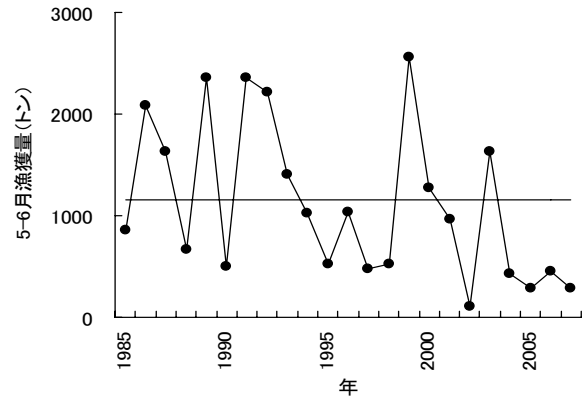
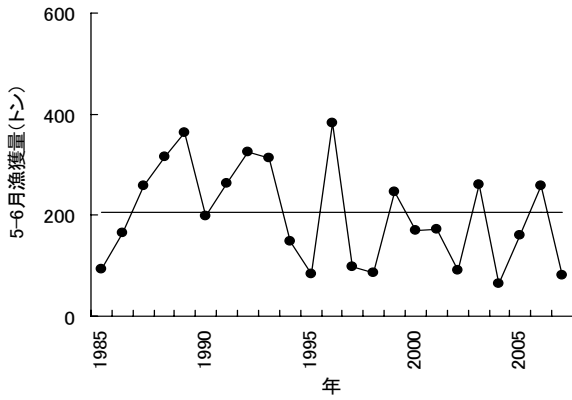


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左図）および紀伊水道西部（徳島県側：右図）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

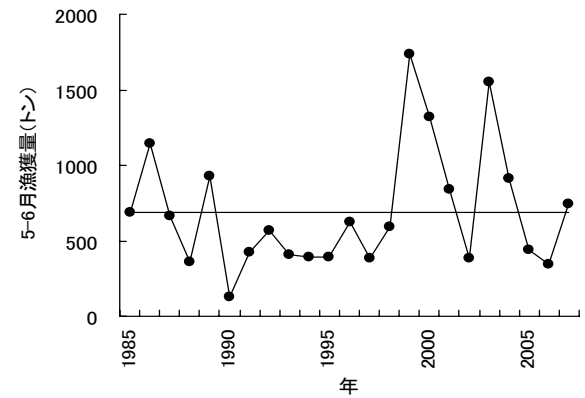
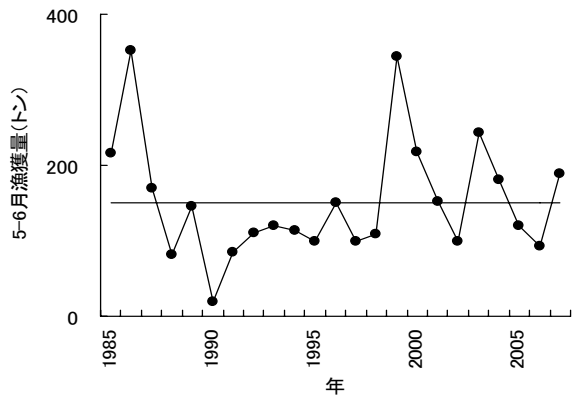


図2 大阪湾（大阪府：左図、兵庫県：右図）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

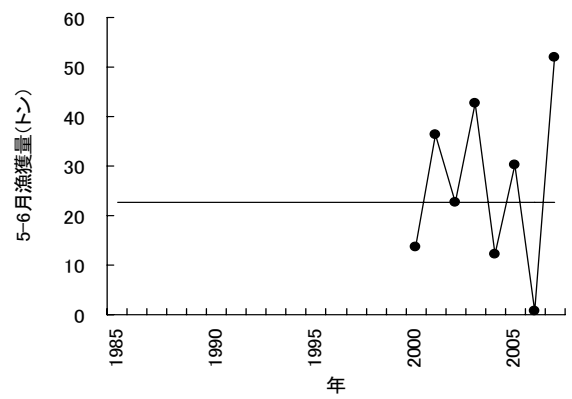
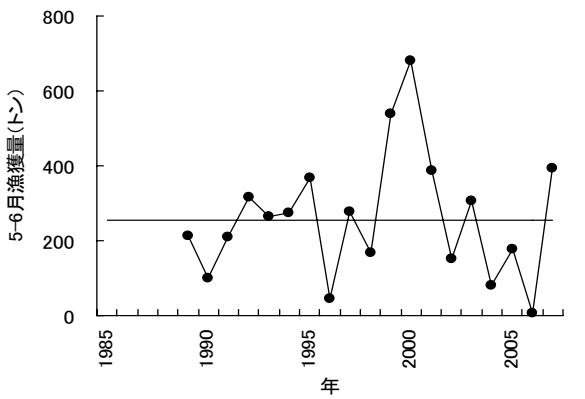
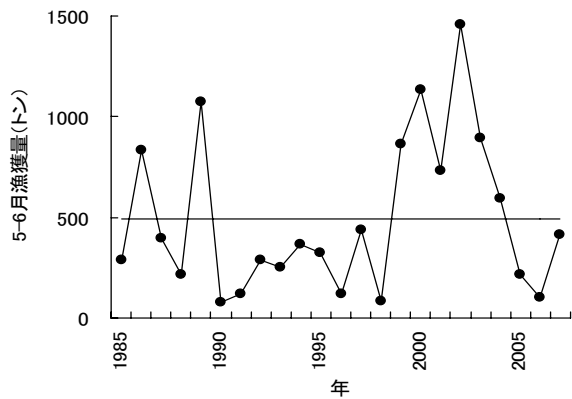


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左上図）、播磨灘南西部（香川県側：右上図）の標本漁協におけるシラス漁獲量、および播磨灘北西部（岡山県側：左下図）の標本船におけるシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所